

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970900508		
法人名	アミコ京阪奈介護サービス有限会社		
事業所名	グループホーム アミライフ・桜ヶ丘		
所在地	奈良県生駒市桜ヶ丘3番57号		
自己評価作成日	令和3年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2970900508-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅に近い環境で生活して頂けるように心がけています。入居者様とスタッフの心の繋がりを大切に「寄り添い介護」を目指しています。女性スタッフに加え、男性スタッフの数も多いことが、バランスの取れたアットホームな施設内の雰囲気形成につながると感じています。新型コロナウイルスの感染拡大によりご家族様との面会は制限させて頂いてましたが、感染状況が落ち着いた10月には対面での面会も再開しました。また、家族様にはご様子を、来所された時や毎月のお手紙などでお伝えしています。
会社のモットーである「笑顔・親愛・憩い」を忘れることなく、これからも皆様の生活を支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、生駒市の阪奈道路沿いにあり、車でのアクセスが非常に良い。建物は、鉄骨造り3階建てで、2・3階部分の2ユニットのグループホームがある。この事業所を運営する法人は、地域に密着した「医療・看護と介護のトータルサービスの提供」を目標とし、グループホームだけでなく、デイサービス、ショートステイ、訪問介護、訪問看護、福祉用具貸与、居宅介護支援、サービス付き高齢者賃貸住宅、自費の介護サービス、保育事業等を運営している。事業所は、「寄り添い介護」を理念とし、職員それぞれの強みを活かし、能力向上と職員の一体感を高めるため研修に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの本来の意義を大切にし、利用者お一人お一人の思いに寄り添い、スタッフ共々楽しい穏やかな生活を送るよう心がけています	法人理念とホーム独自の理念を「寄り添い介護」とし、1階の目に付く場所に掲げ、ミーティングでも確認している。理念に沿ったサービスを実践できるよう職員研修を熱心に行い、能力向上と職員の一体感を高めるために努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の一員として、清掃や行事にも積極的に参加し、また施設行事にも参加して頂けるように働きかけています。(清掃・行事が中止になり、施設行事も縮小して行なっていますが環境が整い次第再開できるようにしています。)	自治会に加入し、回覧板や広報を利用者も見ることができる。地域の清掃や行事に利用者も参加していたが、現在コロナ禍で中止となり地域との交流ができない状況が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについての地域の理解が深まるよう行なっていた生駒市のグループホーム交流会も開催が難しく、協力しあいながら、認知症の人への理解が深まるような取り組みが出来ない状況にありますが、交流が途絶えないように連絡をとりながら再開の準備をしています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催が難しくなり、直接、地域住民・役所・包括・ご家族・他施設関係者の方々との意見交換や情報の共有は出来ていませんが毎回資料配布や文書などで要望・ご意見を伺いサービスの向上を図っています。	コロナ禍の1年半、運営推進会議は書面での開催としていたが、感染状況の落ち着きで、先月は市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、家族の会、自治会、老人会、民生委員、家族等計11名の参加で対面で会議を開催した。会議では現況や今後の予定の報告を行い、想いや感想をもらえるよい機会となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当窓口での、報告・連絡・相談を行い、日常的な情報の共有に努め、良好な関係を築けるようにしています。	市担当課とは、事故報告や困難事例の相談報告、介護保険更新手続き、運営推進会議の議事録の提出、生活保護者の情報交換など、密に連携を図っている。地域包括支援センターからは、入居についての問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者やご家族の思いを第一に考えることを、毎月開催の身体拘束適正化委員会や文書における問題点の共有、個人・フロア毎の指導を通じて共有しています。スタッフの都合で接することのないように徹底しています。	年2回身体拘束についての研修を行い、2ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を実施している。やむおえず拘束する例はあるが、毎月家族から同意書を頂いており、身体拘束適正委員会で見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待事例や権利擁護について文書で回覧し、各自が理解したかの確認を徹底し、スタッフ間で気付くことがあれば、毎月開催の部門会議で意見交換できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人もおられるので、日常的な関係性を大切に、その制度や権利擁護などについての理解を深めるように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす場合は、丁寧に説明を行い、疑問がある時はいつでも応じながら、理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が開催できませんが、ご家族の意見を電話や面会・来所時にお聞きする様にし、共に考え、スタッフ全員が共有し、より良い運営に繋がるよう心がけています。	利用者や家族からの意見や要望は、普段から把握できるよう気を付けている。コロナ禍でも家族と面会できるようにし、ガラスドア越しやアクリル板での飛沫防止をして実施したり、別フロアでのリモート面会をできるようにするなど工夫しており、その時家族から要望等を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部門会議と身体拘束適正化委員会を通じて、全スタッフと考えながら共有することで、より良い運営に繋がるよう心がけています。	職員からの意見や要望は、会議等で把握し事業運営に反映させている。職員個々のケア内容にバラつきがあれば統一を図るとともに、個々の職員の長所を活かし、レクリエーションや歌、飾り付け等にアイデアを取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれの個性を大切にしながら、モチベーションの向上に向けた労働環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の課題を設け、外部講師に頼ることなく、スタッフ自らが学習し、講師となり資料を作成・配布することで、本当の理解と力量を高めるようにしています。 外部研修会の情報提供をしながら、参加を支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	生駒市のグループホーム交流会や多職種交流会を開催の開催が難しくなっていますが、施設内での情報共有や指導・スタッフ相互のサービス向上が出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの要望、本人の面談により情報収集を行い、困っている事、不安な事をお聞きし、内容によっては主治医・看護師の意見を交えて本人の安心と心の繋がりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ヒアリングによるアセスメントを行い、常々不安な事、要望などに耳を傾け、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意見や医療関係・担当のケアマネジャーなどからも情報を伺い、より良いサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近すぎず、遠すぎず、常に尊厳の気持ちで、暮らしを共にするもの同士の関係を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、ご家族様の要望も伺いながら、ご家族と本人の絆を大切にしながら、支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は友人やご近所の方の面会もありましたが、現在はほとんどなくなっています。地域の行事も中止になり、一時帰宅・面会なども制限せざるを得ない状況になっていますが、ご様子をご家族に克明に伝え、入居者様にもご家族やお知り合いの話をするようにしています。	毎月、家族にホームでの利用者の様子を書面で送っている。コロナ禍でも感染防止対策をして面会をしてもらったり電話で家族と話をしてもらったりするなど、馴染みの関係の継続を支援している。利用者のお気に入りのコーヒーやスイーツを持参される家族もおられる。年末年始の自宅への外泊などを、感染状況を見て検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に共同生活の色々な場面で、孤立せず他の方と関われるように、職員も一緒に関わりながら交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了の多くは、ご逝去や長期入院です。ご家族様からお問合せがあれば、記録写真をお渡しするなど、関係性の維持を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴やご家族様の思いを理解し、できる限りご意向に寄り添えるように努めています。困難な事があっても、できるだけ入居者目線で対応しています。	意思表示が困難な利用者からの意向の把握は、家族からの情報や本人の日常生活での表情や仕草から読み取り把握している。関わり方がお互いに納得し、自立度が上がった方もおられる。	利用開始時のアセスメントシートに、本人の趣味趣向、生活歴の詳細、自宅での様子などの情報が足りない。シートの様式を工夫するとともに、よりその人らしさを把握する取り組みを期待する。書面は、家族に記入してもらえる書式もあれば良いと思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントの情報に基づき、サービス利用のモニタリング、入居後のカンファレンスを行い、さらなる思いや意向の把握につながるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況については、常に情報を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに、計画・実施・モニタリングの記録を残し、担当者会議を開き、ケアの見直しをして、次の介護計画を作成しています。	利用者や家族の思いを聴き、事業所で暮らすうえでの解決すべき課題を考えて介護計画を作成している。定期的なモニタリングを行い、担当者会議を開いて半年に1回更新している。計画に対する家族の意向は、面会時に聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌・業務日誌、全利用者一覧のホワイトボード(連絡板)、全利用者一覧の意見交換ノート、日勤⇄夜勤の申し送り、などを活用しています。また毎月の入居者様の様子を、各スタッフが文章にまとめて、全スタッフに回覧しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応した「寄り添い介護」に取り組み、柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・消防・地域の方々と連携して、安全で豊かな暮らしができるように支援しています。現状では難しいですが、状況が安定次第、ボランティアの演芸・演奏グループなどと連携・イベントの開催も再開できる様になります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、主治医の往診や、家族のご希望で歯科医・訪問看護・リハビリの訪問を受けています。また判断しにくい発疹などは専門科にお連れして安心できる受診を心がけています。	近隣の協力内科医が、週一回訪問診療を行っている。希望する医師をかかりつけ医にすることができ、往診も受け入れている。歯科医師と歯科衛生士が、月1回往診し口腔ケアを行っている。循環器内科、泌尿器科に外来受診されている方もいる。訪問リハビリを受けている方もいる。週5日看護師が勤務し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お身体に関する変化や気づきを常勤看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生駒市民病院と、協力医療機関連携契約を結び、緊急時等の連携をしています。 施設の主治医とも業務協定を結び、入退院時の情報交換に努めています。新型コロナウイルス対策も万全に行い、感染時には速やかに対処できる様にスタッフ全員で共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、ご家族・本人の意向をお聞きして、主治医に相談している。 今年、一名の方を見取りました。今後多くの課題もありますが、ご家族の思いを何よりも大切に、今後も可能ならば対応したいと考えています。	契約時に、本人や家族に重度化した時の事業所の方針や対応などの説明はなされていない。利用者が重度化したとき、医師や看護師、職員が集まって見取りの説明を行ない、本人や家族の意向を確認して同意書を得ている。意向に沿って見取りケアを行い、この1年間で1名の方の見取りを行なった。	事業所の重度化対応指針を作成し、契約時に本人や家族に説明を行い、話し合いの機会を重ね、安心して最期を迎えられる取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年スタッフ研修会で、緊急時の対応についての研修をしています。各階に緊急時のマニュアルを常備し、常に確認できる環境を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、消防署に依頼して、消火避難訓練を行っています。地震や水害発生時のマニュアルを整備し備えて、情報の共有をしています。地域への協力要請や飲料水、食糧の備蓄もしています。今年にはコロナ禍で訓練が出来ていません。	避難訓練は、コロナ禍でこの1年実施していない。緊急時に一目で理解できる手順マニュアルや緊急連絡網を完備している。非常時に備え飲料水、クラッカー等1日分の備蓄し、あとは法人本部から支援で対応することになっている。地域との協力関係について、話題に上がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人のひとりの個性を尊重し、プライバシーの確保に心がけています。言葉ひとつにも尊厳ある言葉・態度で接しています。	利用者へは、原則苗字に「さん」付けで声掛けしている。親しくなっても言葉使いが砕けすぎないように注意している。トイレ誘導の声掛けにも工夫し、自尊心を傷つけないように配慮している。また、入浴介助は希望者には同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の希望に添うようなケアを行い、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての大まかな1日の流れはありますが、一人ひとりの希望や状態に合わせて個別に対応し、その方のペースとご意見を大切にして支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを重視して、服や身だしなみへの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体的に重度の認知症の方が多く、調理ができる方はいません。個別に力を活かして、片付けや食器拭き、テーブル拭きなどを一緒に行っています。	朝食はパンで、昼食と夕食は法人本部より届いた食材を1階で調理している。ご飯は、各ユニットで炊いている。イベント時は、職員がケーキを手作りしたり、テイクアウトでハンバーグ、ピザ、ポテト、寿司等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の健康状態や病状に合わせた食事内容で、一日の食事摂取量・水分量を記録して、一人ひとりの状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケアの徹底と、口腔内の状態の観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、その方に適したトイレ誘導に努めています。昼間はリハビリパンツ、夜間は状態に合わせて、トイレ誘導、オムツと、利用者ごとに対応に努めています。	利用者18名のうち、昼間布パンツ使用の方が3名、リハビリパンツ使用の方が8名、オムツ使用の方が7名おられる。オムツ使用の方は、ほとんどトイレに座ることはない。入居期間が長くなり、重度化が進んで排泄の自立が難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、飲食物や軽運動で改善されない場合は、医師に相談し、薬の服用などの対応をとっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、本人の体調や本人の希望があれば、入浴出来るように配慮しています。	入浴は、月曜から土曜の午前中に各ユニット3日づつ実施し、希望があれば同性介助を行っている。入浴を拒否の方には、順番や職員を変えたり、曜日や時間を変えるなど工夫し対応している。職員と一対一になる時間であり、昔の楽しかった話をされたり、歌を歌われる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握して、体調・体力や年齢なども考慮し、休憩や安心した眠りができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師と相談し、服薬の支援と病状の変化を把握しています。契約薬局と連携し、薬剤の管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性ある入居者様それぞれに役割を持って活動的な生活を送って頂けるように支援しています。季節折々の行事や各種イベントを行い、参加しながら楽しんで頂きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々、穏やかな日には施設のお庭への散歩をして頂きます。家族様からの申し出による外出・外食・外泊などは、現在できませんが直ぐに再開できる様にしています。	コロナ禍前は、春と秋に外出する機会があったが、現在は控えている。気候の良い時期は、施設の庭に出て外気浴することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる入居者様はいないため、お金はお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙のやりとりをされている方はおられません。希望される入居者様には、柔軟に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的な清掃・換気に加え、殺菌・加湿・空気清浄機を備え、清潔な環境で暮らしていただきます。またディスプレイや小物で季節感を感じていただけるように、工夫しています。アルコール・石鹸・次亜塩素酸殺菌など消毒・殺菌を徹底しています。	居間のテレビを全ての利用者が見られるように、テーブルと椅子が半円状に配置されている。壁面には、季節の飾り付けやレクリエーションでの様子の写真が貼られている。居間と廊下にカメラを3ヶ所備え付け、職員詰所にあるモニターで利用者の様子見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様それぞれの生活リズムや普段の行動パターンに合わせて、一人になりたい時や、入居者同士で過ごしたい時、ご自由に過ごせるよう、場所や時間を提供させて頂けるよう、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望に応じて居室には、馴染みの家具や生活用品をそろえて頂き、安心した生活が送れるように支援しています。また、動物のカレンダーや、お誕生日の寄せ書きを飾るなど、居心地の良い空間作りを意識しています。	居室の入り口の表札に部屋番号と名前が記してある。居室には、ベッド、クローゼット、エアコン、カーテンが設置されており、シーツなどリネン類は月曜日に業者が交換している。	利用者のほとんどの居室は備え付けのベッドだけで、利用者が使い慣れた家具などが持ち込まれていないので、その人らしさが感じられない部屋となっている。本人の生活歴を把握し使い慣れた生活用品の持ち込みを推奨し、その人らしさのある空間づくりの支援を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を生かせる環境や対応を目指し、一人ひとりの能力に合わせ、安全な動線作り、また、自立した生活が送れるように対応しています。		